

令和5年度学校評価及び令和6年度重点課題

1. 目指す学校像

1-1. 教育方針

- ・個々の能力を十分に伸張させると共に、品性の高い教養のある人間を育成する。
- ・思いやりのある豊かな心、真理を追究する真摯な心、自己を厳しく律する克己の心を育て、文化国家の担い手にふさわしい人材を育成する。

1-2. 教育目標

- ・豊かな知性、正しい判断力、理解力を養うことを教育の根本とし、将来の目標を達成するために恵まれた環境を活用してきめ細かい指導を行う。
- ・基本的な生活習慣を身につけさせるための躰については十分に留意、厳しく指導し、あくまでも清楚にして質実剛健な校風の高揚に努める。

2. 令和7・8年度学校改編

- ・令和7・8年度で学校を新たなものとして改編する。

- 1) 令和7年度：2期制への移行、独立クラス（特進クラス、アスリートクラス）の設置、一般クラスでは進路実現に向けた課題（進学、栄養看護、幼児教育、美術、資格取得）を設定
- 2) 令和8年度：7限（45分）授業の導入、コース制（特進コース、アスリートコース、総合コース）への移行、総合コースでは進路実現に向けた課題（進学、栄養看護、幼児教育、美術、資格取得）を設定

3. 学校改編に伴う新たな目標設定

- 1) 以下の①～③を実現する教育を推進する。

- ①目標に応じた学習が継続して「できる」こと
- ②主体性を「育む」こと
- ③目標を「実現する」ことで自律すること

- 2) 気づかなかつた能力の覚醒を徹底的に支援し、一人一人の可能性を伸ばし続ける教育をとおして、自己肯定感を高め、未来にチャレンジする勇気を育てる。
- 3) 基礎的、基本的な学力の養成と生徒の目標に合わせたカリキュラムの構築
- 4) 総合的な探究指導
- 5) 進路別指導、小論文指導、検定学習（漢検）、エリア学習（公開）
- 6) ICTを導入した授業展開の充実と学習の個別最適化への対応
- 7) 新指導要領への対応のための研鑽

4. 改編後も継続して取り組むこと

- 4-1. 生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

- 1) 遅刻指導の徹底
- 2) 定期的な頭髪服装検査、指導の実施
- 3) 登下校中のマナーの向上
- 4) 講習会の実施（自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習など）

- 4-2. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

- 1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実
- 2) 部活動の活性化
- 3) 生徒会活動の充実

- 4-3. いじめ問題への対応

- 1) いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

5. 各目標に係る実践状況

5-1. 生徒の規範意識の向上、基本的な生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

1) 遅刻指導の徹底

- ・令和5年度の遅刻者の1日平均は、1年7.3人、2年12.0人、3年10.8人（合計30.1人）であり、昨年度と比較すると合計で10.2人増加している。
- ・生徒指導部による遅刻指導でも、10ポイント指導を受けた生徒数239人（昨年度169人）、20ポイント指導を受けた生徒数41人（昨年度32人）、30ポイント指導を受けた生徒数5人（昨年度1人）、昼からの登校により指導した生徒数77人（昨年度46人）と、どの指導も人数が増えている。
- ・コロナ感染症が5類に変わり、遅刻、欠席の扱いが変わったこともあるかもしれないが、体調管理も含めて規則正しい生活が送れるよう指導を根気強く行っていく。

2) 定期的な頭髪服装検査、指導の実施

- ・学期始め、中間考査時、期末考査時に行っている頭髪指導では、指導生徒数合計579人（内、帰宅指導生徒44人）であった。昨年度は指導生徒合計701（内、帰宅指導生徒48人）であった。指導生徒総数、帰宅指導生徒数ともに減少している。引き続き取り組んでいきたい。
- ・服装については登校時に身だしなみを整えるよう指導し、適宜、生徒指導部による巡回指導を行った。

3) 登下校中のマナーの向上

- ・本年度も生徒指導部を中心に登校時と下校時の指導を行った。ただ昨年度と同様、近隣の方や公共交通機関利用者よりマナーの至らない点について指摘を受けており、引き続き全体、個別への指導を行っていく。
- ・生徒会でも定期的にあいさつ運動を行った。近隣の方からもあいさつする生徒が増えているとのお言葉をいただいている。

4) 講習会の実施（自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習など）

- ・生徒指導部により自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習を行った。
- ・人権教育推進委員会により各学年ごとに人権講習会を行った。
 - *テーマ 1年：いじめと情報モラル、2年：いのち・性について、3年：LGBTQについて
 - *講習後のアンケートからは生徒たちが自分事として捉えていることがうかがえる。引き続き取り組んでいきたい。

5-2. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実

- ・今年度は体育祭、文化祭共に保護者の方に見に来ていただいた。
- ・文化祭後の生徒アンケートでは94.4%の生徒が「楽しむことができた」「まあまあ楽しむことができた」と回答している。体育祭ではアンケートを実施していないが、真剣な表情で一生懸命競技に臨んでいる姿が多数見られた。生徒がより楽しむことのできる行事とできるようこれからも取り組んでいきたい。

2) 部活動の活性化

- ・今年度のクラブ所属生徒数は後期の部員名簿によると運動部221人、文化部110人、同好会27人の合計358人であった。所属率は358/541≒66.2%（昨年度44%）と大きく増加した。
- ・主なクラブ実績
 - 硬式野球部：令和5年度選手権大阪大会ベスト4等
 - 柔道部：女子（団体・個人）近畿大会出場等
 - バスケットボール部：新人大会大阪府3位、近畿新人大会出場ベスト8進出、大阪招待試合4位等
 - ハンドボール部：インターハイ予選北ブロックベスト8、新人大会北ブロックベスト8、私学大会ベスト8等
 - 男子バレーボール部：全日本高校選手権大会大阪地区決勝ラウンドベスト16等

3) 生徒会活動の充実

- ・生徒の生活の改善と向上を図る活動としてあいさつ運動、校外清掃を実施した。
- ・文化祭の運営を行った。
- ・オープンキャンパスでは受付補助、学校生活の説明を担当した。
- ・コンタクトレンズの空ケースの回収を行った。

5-3. いじめ問題への対応

1) いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

- ・1・2学期末(定期考査毎)には生徒にアンケートを取り、未然防止に努めた。いじめ防止対策委員会としていじめと認定した案件が1件あった。迅速に対応することで被害生徒の不安を取り除き登校を継続することができた。

6. 各種学習活動の報告

6-1. エリア学習

6-1-1. アドバンスエリア

- ・土曜エリア学習、放課後講座、サマーセミナーで受験、進学講習を実施した。
- ・今年度も出席している生徒に関しては目的意識を持ち、しっかりと頑張ることができた。また、1年生に関しても国数の選択で授業を行った。また、2月3日にはフロムページの夢ナビ講座の講義視聴をおこない、興味関心のある分野に関しての意欲を涵養した。
- ・進路概観について、今年度も指定校推薦での受験者が多かった。入試前にはリクルートの協力の元、面接練習を行った。
- ・美術系進学の生徒はなかなか実力向上の機会が持てないこともあり、合格が出なかった。
- ・受験に対するリサーチ力が低い生徒に関しては合格も出にくい。
- ・今年度は例年よりも一般受験まで進む生徒が多かった。

*合格大学：関西学院大学(生命環境学部環境応用化学科)、摂南大学(理工学部生命科学科)、京都外国語大学(外国語学部英米語学科)、近畿大学(理工学部応用化学科)等

6-1-2. キンダーアンドウェルフェア

- ・土曜エリア学習の他に、放課後講座としてピアノ講座と福祉講座を、サマーセミナーとしてピアノ講座と保育検定講習を実施した。

- ・エリア学習の主な内容

*キンダー

- ・ピアノ講座、保育実習、幼児体育、季節の造形等
- ・保育検定4級に2年生が4人合格した。

*ウェルフェア

- ・季節の造形、レクリエーション実習、出張講義(社会福祉法人 豊中ファミリー)、
- ・実習として希望者に、五日間の夢体験事業(大阪福祉人材支援センター主催、2年生1名3年生1名参加)、福祉のお仕事体験(大阪福祉人材支援センター主催、1年生1名、2年生2名参加)を実施した。体験で学んだことの発表会を実施した。

- ・まとめ(キンダー)

*土曜のエリア学習では各回、目標を設定し生徒と教員共に実施することができた。季節のイベントにおいては保育者という視点からも考え、校外の学習を楽しみつつ学習し、振り返ることができた。保育実習や五日間の夢体験事業にも参加し、より保育への進学の意思を膨らますこともできた。

*今年度は新たな取り組みとして全国高等学校家庭科 保育技術検定(3、4級)にも取り組んだ。年度最後のエリア学習ではピアノの発表会で日頃の練習成果を発表した。これらは今後も継続したい。

- ・まとめ(ウェルフェア)

*夏休みに短期間ではあるが施設訪問をし、実際に高齢者や介護に携わる方々に関わることができたことは生徒にとって良い体験となった。また出前授業では介護施設の方々の体験を聞き、とろみ食、食器や移動用リフトの介護用具の体験をすることができた。土曜のエリア学習ではキンダーと合同で季節の行事を体験できたことも新鮮だった。次年度は外部施設での実習の継続、授業での体験的な実習に加え、

生徒からの要望のある車いす体験や認知症サポーターの受講も実施したい。

6-1-3. アスリート

- ・基本的には各クラブにおいて活動した。また、共通講座としての「目標設定講座」を各クラブの適当な時期に実施し、生徒の意識向上につなげることができた。エリア学習によって活動時間が確保でき、余裕をもってメニューを設定できたり、練習試合や合同練習も実施することができ、生徒のアスリートとしてのスキルアップにつながったと感じている。全体的にエリア学習の時間は充実したものになっていると感じている。またエリア公開によって、個人だけでなく、学校・チーム単位での参加も増え、箕面学園を知ってもらう良い機会になっていると感じている。一方で、大阪青山大学北摂学舎の体育館が常時使用することができなくなるなど、活動場所については継続して検討が必要である。
- ・生徒募集について、各クラブがこれまで以上に募集活動を精力的に行い、SNSなどを積極的に使用して広報活動を行った。さらに今年度から特別クラブ奨学金の対象がアスリート6クラブに拡充されたこともあり、昨年度よりも一芸対象生徒数は大幅に増加させることができた。一方で、まだまだ学校評価等を理由に断られることも多々あり、厳しさ、難しさも感じた。また、募集活動の範囲を広げるなかで、学校運営の察がないことが断られる原因になったケースもあった。今後さらに各クラブの活動を充実させていくためにも、学校運営の察の設置の検討をぜひお願いしたい。各クラブが募集活動を精力的に行ってきた結果、各クラブの部員数も増えてきているが、それに伴い、施設（活動場所）や施設へのアクセスの面での問題も同時に起こってくる。校外の施設を利用する際の費用のことなど、生徒や保護者への負担をできる限り抑えることが、募集にも繋がることになるため、検討が必要である。
- ・進路について、今年度はクラブ活動を通じて大阪商業大学、桃山学院大学、太成学院大学、追手門学院大学、大阪国際大学、大阪産業大学、関西福祉科学大学、花園大学、びわこ成蹊スポーツ大学、芦屋大学、神戸医療未来大学、国際武道大学、同朋大学、日本福祉大学、九州共立大学、宮崎産業経営大学、大阪リゾート&スポーツ専門学校などへ進学を決めた。就職面でも（株）プロテリアル金属、三方よしコンサルティング株式会社就職し、競技を続ける生徒もいる。また、台湾国立体育大学への留学を目指し取り組んでいる生徒もいる。他の生徒たちに関しても、クラブ顧問が進路について話をする時間をしっかりと持ち、それぞれが将来の目標に向けて進路を決定してくれた。スポーツ推薦や指定校推薦における志望理由書や面接などに向けて、担任の先生方やアドバンスエリアの先生方に協力していただき、それぞれ合格することができた。
- ・今後に向けて、部員数が増加するなかで、場所の問題など環境を整えていくことが大きな課題となっている。よりよい環境を整備する方法を考えつつ、エリアの基本方針を達成できるように、それぞれのクラブが工夫しながら活動をより充実させていきたい。募集面では、募集活動を早く始めたり、SNSを活用するなどして、今年度以上に募集活動も充実させていきたい。戦績をあげることが生徒の進路選択を広げるだけでなく、募集にも大きく繋がるため、戦績をあげられるように各クラブの活性化を図っていきたい。また、学校全体の生徒確保の力になっていきたい。また、他エリアの先生方のご協力を賜りながら、生徒の進路希望などを叶えられるよう指導していきたい。

6-1-4. キャリアアップ

- ・土曜エリア学習として班別講座の他に、全体講習として、正規雇用・非正規雇用、求人票の見方、ワークルール、ライフサイクルと性（講師：1-6 保護者佐藤さん）、主権者教育（選挙権、模擬校長選挙）等を行った。
- ・放課後講座として、以下の講座を行った。
 - ①理科探究講座
理科を題材として探究力を身につける事を目的とした。新たな実験を重ねるのではなく、1つの実験について様々な視点や報告、発表の方法への工夫を更に考察し、更により探究結果を追い求める形で、個々の成長を短期間で促す内容となった。
 - ②美術系進学のための画力アップ講座
美術系進学を目指す生徒が漠然と進路を追うのではなく、丁寧に進路相談に乗ったり基礎的な画力を身につける取り組みを続けることが出来た。予めこのような知識や技術を補っておくことで、受験時や進学後の技量や知識の不足をフォローすると共に、将来への進路意識の向上に繋がる内容となった。
- ・サマーセミナーとして、基礎学力講座（国語）、Excel 基礎、SPI 対策講座、理科講座／料理講座（防災教

育)を行った。

・本年度の振り返り

取り組みの中心が土曜日のエリア学習であり、回数が限られ1回ごとの間が空いてしまうので、連続的な取り組みが困難であった。中でも第5回と第6回は間隔が近く、主権者教育、模擬校長選挙として2回シリーズで取り組むことが出来た。生徒の反応や事後の感想も良く、連続的な取り組みにより学びを深めることの重要性が見て取れた。また、学習の単位として十数名程度の小集団(班)を編成しているが、従来学年をまたいだ縦割り体制であったものを、学年別の班編制に変更した。担当教員も含めていつもの顔ぶれ感が増し、緊張感の薄れも見られたが、同じ題材でも学年ごとに異なる視点や扱い方が出来、よりスムーズな学習環境を整えられた。本年度の取り組みの特色として、コロナ感染への配慮が減り、全体が集合しての講座が可能となったことが特筆される。制約の多いリモート方式とは違い、実施可能な講座の幅も広がった。昨年度まではリモートに対応する外部講師への依頼も多かったが、本年の特色として、対面で保護者や本校職員による講座を複数設定できたことが収穫であった。7限目講座やサマーセミナーでは連続的な学習が可能であり、エリアの特性から教科書にとらわれず幅広い講座設定が出来た。しかし、生徒側の課外学習に対する意識がさほど高くなく、参加者が伸びづらい点や、講座を担当できる教員が限定的であった、という課題が残された。

・次年度以降へ向けて

令和8年度以降の改編に向け、現在取り組んでいる内容を精選し特化した学びに舵を切ることになると考えられる。次年度は同じスタイルの運営でありながら、8年度以降のプレ的な講座や取り組みを増していく必要がある。同時に、エリア教員が積極的に関わる機会を増やし、改編後のキャリア教育を深めるため教員自身が鍛えられる場としても意識を高めていきたい。

6-2. 小論文指導・小論文講座について

・今年度の内容

*学研みらいの以下の教材を用いた。

*1年生:文章の書き方講座-説明作文・意見作文

2年生:文章の書き方講座-体験作文、志望理由書講座

3年生進学希望生徒:志望理由書講座

就職希望生徒:課題作文「高校生活であなたが得たものについて」

*他に2・3年生の進学希望者には放課後講座として、小論文講座を開講した。

6-3. 総合的な探究学習について

・今年度の内容

*1年生:学校を探究する

主なテーマ:箕面学園で不便なこと、バリアフリー・ユニバーサルデザインは進んでいるのか

2年生:修学旅行を探究する

主なテーマ:東京について、クルックフィールドズ(循環型農法)の講演、振り返り

3年生:進路を探究する

・今年度は各学年でそれぞれテーマを設定し、学習を行うことにした。また、1・3年生については学年ごとに発表会を行った。タブレットを導入している1・2年生ではそれぞれでタブレットを使用し、発表資料やグループワークに取り組む様子があった。3年生でも貸し出し用タブレットを使用するクラスや、原稿を作るクラスなど様々な取り組みがみてとれた。探究学習に関しては、社会とのつながりや自己有用性の高まりなど様々な効果が期待できる。今後も継続していくことにより、「本校独自の探究学習」を模索していきたい。

6-4. 検定学習

・朝学習、漢検学習(HR)での学習を行い、年2回の検定(1・2年6/9と1/26、3年6/9と10/20)を実施した。

・各学年2回の実施で、合計310人が合格した。中でも上位級(準2級)の合格者が4名だった。

・その他検定について、英検準2級の合格は2人だった。

・総括と課題

6/9に実施した第一回漢字検定において、2級の合格者が0名、準2級の合格者が4名と昨年よりも少なかった(昨年度2級1名準2級7名)。昨年に比べ上位級合格者が減少しているが、生徒全体の受検級水準が高くなりつつある事が原因の一つだと考えられる。より高い級に挑む受験者が増えるため、講座の開講などの対策を取る必要がある。本年度は例年通り各学年2回実施することができたこともあり、昨年度と比べて年度全体の合格者数も増加している。(昨年度合格者：285人)

英語検定・保育技術検定からも合格者が出ている。中でも、英語検定では上位級(準2級)の合格者が出ている。来年度も引き続き各学年・教科・部活と連携を取りながら、さまざまな対策を講じつつ各種検定を実施していく。

6-5. スタディサプリによる学習

・目的

*「学力の向上」に向けて、個々に学習のしやすい環境を提供する。

*学びなおし、学習習慣の涵養、学力の定着を目指す。

*模試との連携を強くし、生徒自身の「進路意識」と「学習の質」の向上を目指す。

・取り組み

*日頃の授業の補助教材としての活用、就学支援・学習支援での活用、到達度テストの結果に基づく定期的な課題の配信(朝学や家庭学習の課題とする)

・到達度テスト後、次の授業設計に活かせるように教員向けに振り返り会を実施した。

・まとめ

今年度から1・2年生はスタディサプリ、3年生は一部選択科目ですららを利用した。それぞれの教科での利用を中心に、各教科に成績への反映などを促し、一定量の利用ができていたのではないかと。生徒のアンケート結果からは、課題の量が多いとの声が多いが、試験範囲の復習や義務教育範囲の学びなおしが中心の課題配信であるように思うので、毎日計画的に取り組む力を育成することが必要ではないか。また、各教科で、小テストや考査問題に反映させることが見受けられ、生徒の取り組むきっかけになったと思う。今後は、課題配信以外の部分で、生徒自身がスタディサプリを利用してくれると、学習支援アプリの1つとして、より効果的になるのではないかと思う。来年度からは、3学年全生徒が利用することになり、多くの先生方が、スタディサプリに関わる事が想定される。より多くの意見を出してもらい、箕面学園らしいスタディサプリの活用方法というものを確立していければと思う。

・来年度に向けて

留学生が利用できるよう、一般生徒と同じ内容ではなく、留学生担当者を中心に留学生用の課題配信を計画的に行っていきたい。教科毎の課題配信が一定量あったので、今後も教科での活用を中心に組み合わせていきたい。到達度テストの結果から、数学・英語の苦手分野の克服を中心に、連動課題配信で個別最適化を図りながら学年全体への課題としていきたい。今後は、生徒自ら取り組んでいく環境作りが必要である。

以上

【各目標に係る実践状況及び報告について学校評価委員会からの意見】

5. 各目標に係る実践状況

5-1. 生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

1) 遅刻指導の徹底

※昨年度と比較し、遅刻者の増加には大きな課題が残る。その要因としては、コロナ感染症の5類移行に伴う欠席、遅刻の取扱いの変更もあるが、規律正しい生活を送れていない生徒が増えているのではないかと感じる。また、ポイント指導の慣れ（10ポイント、20ポイント）が生まれているように感じる。ポイント指導の見直しが必要だと感じる。

2) 定期的な頭髪服装検査、指導の実施

※指導生徒総数の減少については、定期的な指導の効果だと評価できる。

服装については、学校内での身だしなみは向上しているが、登下校時の服装の乱れは目立つ。指導による改善よりも制服の着方に対する意識改革が必要と感じる。

3) 登下校中のマナーの向上

※登下校時のマナーについては、いまだに近隣、公共交通機関よりマナーの悪さを指摘される事が多い。ただ大半の生徒は教職員の指導の成果もあり、きちんと守れており、マナーを守れないのは一部の生徒に過ぎない。指導に従わない、何度も繰り返す生徒に関しては、特別指導も視野に入れ、指導する必要があると感じる。

4) 講習会の実施（自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習など）

※講習会では、自ら「自分事」として捉えることがとても重要なポイントだ。

現在講習のテーマがその年代にマッチしているようだが、毎年同テーマでマッチするとは限らない。常にアップデートさせ現況の反映が必要。

5-2. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実

※今年度より体育祭、文化祭共に保護者の入場が許可され、本来の学校行事の様子が戻りつつある。アンケート結果からも95%以上の生徒が楽しめていることから、学校行事の充実を感じることができる。

2) 部活動の活性化

※クラブ所属率が昨年度より大幅に増加していることに、クラブの活性化が実現できていると評価できる。近年では、硬式野球部をはじめ、ハンドボール部、バスケットボール部、柔道部と近畿大会に出場する実績を上げ、アスリートクラブ中心に活性化できていることを高く評価できる。

3) 生徒会活動の充実

※あいさつ運動、校外清掃、文化祭運営、オープンキャンパスでの受付補助・学校生活の説明、コンタクトレンズの空ケースの回収等、定期的に活動していたが、実施してどうだったか、次年度の目標や課題はと不透明な事が多い。もう少し具体的な（短期的、中期的）目標を設定する必要があると感じる。

5-3. いじめ問題への対応

1) いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

※未然防止に努め、いじめのない学校づくりを目指してほしい。

6. 各種学習活動の報告

6-1. エリア学習

6-1-1. アドバンスエリア

※放課後講座や進学講習など学習機会を設定し、生徒自身も目的意識を持って取り組んでいることを高く評価する。また、関関同立、産近甲龍レベルの受験者が年々増え、合格実績にも大きな変化が見られる。

しかしながら、一般受験まで進む受験者が増えている現状を考え、現段階での学習実力を測る模試の導入や受験校の入試傾向に対するリサーチ等積極的に行う必要があるのではないかと感じる。

6-1-2. キンダーアンドウェルフェア

※キンダーについては、ピアノ講座、保育実習を中心に保育進学への意思を膨らませ、充実感のある活動ができたのではないかと評価する。また、新たな試みとして保育技術検定やピアノ発表会等の個々に目標を設定する活動に取り組めたことを評価する。

※ウェルフェアについては、レクリエーション実習、出張講義（出前授業）を中心に活動的に取り組めたことを評価する。

6-1-3. アスリート

※エリア学習によって、活動時間が確保され、様々な活動を行うことができることにより、近年、府大会から飛び出し近畿大会へ出場できるクラブが増えてきている実績から、アスリートにとってエリア活動が充実したものになっていることがわかる。

また、積極的な募集活動により、一芸一能で入学する生徒が増加している反面、ハード面の確保等の課題も多い。年々箕面学園への興味を持ってきている中学生が増えている傾向であるため、募集の足枷にならないよう、課題に向けて前向きに検討を続ける。

6-1-4. キャリアアップ

※限られた時間の中、幅広く様々な取り組みが行われたこと、高く評価する。小集団、班分け、学年ごとの取り組み等、過去の取り組みからの課題を効果的に反映されていると感じる。一方、キャリアアップに限ったことではないが、課外活動へ消極的な部分や、講座の設定、また学校改革に向けての課題は大きく残る。

6-2. 小論文指導・小論文講座について

※学年ごと、進路毎に内容を精査し、取り組み効果を知りたい。また学校改革に伴う進路別指導にもより一層強化してほしい。

6-3. 総合的な探究学習について

※学年に適したテーマで取り組んでいることを評価する。また ICT を活用した取り組みも評価できる。特化した「箕面学園独自の探究学習」を期待する。

6-4. 検定学習

※漢字検定、英語検定等、合格者数増加していること評価する。また、受験級に合わせた対策講座が必要になってくる。

6-5. スタディサプリによる学習

※毎日、学習に計画的に取り組む習慣をつけるために適したツールである。ただ、今年度の課題を来年度に生かせるよう活用方法を見出してほしい。

以上